

平成 15 年 12 月 22 日

原子力委員会事務局

原子力発電・サイクル専門部会における論点について（案）

原子力発電・サイクル専門部会においては、平成 15 年 8 月より 3 回の専門部会を開催し、次期原子力長期計画を展望した現時点での原子力発電、核燃料サイクルに係わる政策の論点について整理を実施した。

1．原子力政策を進めるにあたっての論点

（1）信頼回復に向けた国民、地元との相互理解

- ・ 相互理解のための方策（国民、地元、国、事業者等）
- ・ 国、事業者による各種取組（安全確保の取組を含む）についての説明責任の確保
- ・ 国、事業者の信頼回復に向けた新たな取組
- ・ 次世代を担う若者への意識付け、情報発信のあり方

（2）地元との共生

- ・ 立地地域が主体性を持った産官学連携の展開

（3）合理的規制の確保

- ・ 事業者の自己責任、自主保安のあり方と信頼の確保
- ・ 電力自由化等、社会の変化に相応した規制法令体系のあり方

2．核燃料サイクル政策を進めるにあたっての論点

（1）核燃料サイクル

- ・ 複数の選択肢、シナリオを示した上での、短期から長期に亘って整合性があり、かつ柔軟性のある開発戦略の構築
- ・ 事業者の信頼獲得活動を基本とした、プルサーマル計画を着実に進

めるための取組

- ・ 六ヶ所再処理工場に続く再処理工場及び使用済燃料中間貯蔵の再確認

(2) 高速増殖炉技術開発

- ・ 高速増殖炉技術開発を着実に進めるための方策
(「もんじゅ」以降の道筋の明確化)
- ・ 核不拡散性と環境負荷低減等を考慮した次世代核燃料サイクル技術開発(高速炉、再処理、燃料製造等)の進め方

(3) 原子力施設の廃止措置及び放射性廃棄物の処理処分

- ・ 処分に必要な規制の早期・体系的な整備の奨励
- ・ 放射性廃棄物(クリアランスレベル以下のものも含む)の再利用を進めるに当たっての規制の整備と具体的展開
- ・ 高レベル放射性廃棄物処分に係わる技術開発の役割分担
- ・ 高レベル放射性廃棄物の処分候補地選定に向けた、国民に見える活動
- ・ T R U、ウラン、R I・研究所等廃棄物の処分基準、方法、体制の整備
- ・ T R U廃棄物等の合理的処分方策のあり方(高レベルガラス固化体との併置処分、高レベルガラス固化体に替えて海外から返還)
- ・ 長寿命放射性物質の分離変換技術の位置づけと進め方
- ・ 試験研究炉の照射済み燃料の処理処分方策

(4) 技術移転

- ・ 技術移転のあり方と移転後のフォローアップのあり方

3 . 電力自由化時代の原子力開発利用に係わる論点

- ・ 電気事業分科会での議論を踏まえた役割分担の明確化
- ・ 原子力発電と核燃料サイクルの更なる経済性向上のための方策
- ・ 電力自由化の中での原子力産業のあり方

4．人材の育成等に係わる論点

- ・ 原子力発電、核燃料サイクル分野における若手の人材育成と熟年専門家の活用
- ・ 大学との連携協力等を通じた原子力分野の人材育成のあり方

5．将来の原子力開発利用に係わる論点

- ・ 原子力による水素製造技術開発と事業化戦略のあり方
- ・ 次世代炉の研究開発のあり方
- ・ Generation- 等の国際的な動きとの連携・協力のあり方